

個別施策

- C5-1 地域ブランドの育成を推進します
- C5-2 意欲ある農林業者の育成確保を図ります
- C5-3 安心して農林業を営む環境づくりを進めます

ア 施策の目的

農林業者が、安全・安心で新鮮な農林産物を安定的に供給し、経営が安定している

イ 基本施策の評価

D b 目標を達成していないが、目的達成に向けて概ね順調に進んでいる

ウ 成果指標（「△」は目標値を上回ることが望ましい指標、「▽」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2
1戸当たりの農産物 販売額（千円）	3,817千円 (26年度)	△ 目標値	4,361	4,418	4,475	4,533	4,591
		▽ 実績値	4,041	4,273	4,171	4,190	/
		△ 達成率	92.7%	96.7%	93.2%	92.4%	/

※ 指標の目標値は平成28年度に策定した長崎市農業振興計画[後期計画]に合わせて修正した。平成28年度の目標値は、直近値である、平成27年度の「1戸当たりの農産物販売額4,305千円(5,576百万円/1,295戸 2015農林業センサス)」に、平成25～27年度の農産物販売額の平均増加率1.3%を乗じて得た額を目標値とした。以降は前年値に1.3%を乗じて算出。

エ 評価結果の妥当性

本部会での議論を踏まえて考えると、評価結果については妥当であると判断するが、定量的な評価だとしても厳しい評価ではないか。

オ 審議会における政策評価に関する意見

- 評価結果について、定量的な評価だとしても厳しい評価ではないか、コメント付きで評価してはどうか。
- 「なつたより」、「出島ばらいろ」はどのくらいの生産者がいて、一軒あたりどのくらいの生産量と販売額があるのか、現状を具体的に知ることができるよう記載をお願いしたい。

カ 審議会における施策推進に向けた提案

- スーパーマーケットの市場でも圧倒的に人気が高く、販売がすぐに終わってしまうなど「なつたより」の市場評価は非常に高いが、生産量がなかなか伸びない。「なつたより」はまだまだ売れる可能性が高い商品だと思う。生産量が増加するよう生産者の

支援をお願いしたい。

- 農業の第一の問題点は生産者の減少である。「なつたより」の問題点として、植栽数が少ないこともあるが、根本的な原因としては人手が不足していることである。植栽数が多くても収穫時期は限られるため、人手の数により出荷量に限度がある。長期的にみると、まず、絶対的な生産者を増やしていく必要がある。
- 50代、60代だけでなく、これからは40歳～50歳の団塊ジュニア世代の早期退職が加速してくると思う。若者だけでなく、40代から70代の一流企業で培ってきた様々なアイデアを持つ人たちを長崎に呼び込み、農業をしてもらうという大きな構想を考え、すぐに結果は出ないと思うが、基盤整備による農地面積の拡大、生産戸数を増やす取組みを地道に行う必要がある。
- コロナ禍の中でインターネット購買が進んでいる。農業者自身の販売、または、各農業者ができないのであれば、長崎のブランドとしてインスタグラムのようなもので簡単に購入できる仕組みをつくることができないか。デジタルシフトがおきた時に、従来型のチャンネルだけでは農業者の収入確保は難しいと思うので、取組みを進めていただきたい。
- 農業においては、新規就農者、後継者など生産者を確保することが重要である。一方で、高齢化による70歳以上の働く場所の確保も必要となっている。そういった課題を総合的に考えて、高齢者の活用も考えてはどうか。
- 農業は主に個別的な生産であるが、今後、企業組織での農業を検討できないか。外国人実習生や現役を引退した人の活用など、柔軟な雇用形態が可能になるのではないか。また、ITの分野で植物工場などを考えてもよいのではないか。
- リゾート地でのアルバイト「リゾバイ」を検討してはどうか。イタリアでは、ブドウの収穫時期2週間の繁忙期にアルバイトを募集し、アルバイト終了後に観光して帰るという。長崎でもそのような短期的な労力確保の取組みを進めるといいのではないか。

キ 次期総合計画の策定に向けた意見

なし